

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>

台湾医療 NGO・台湾ルーツの医療支援活動に協力

2014年2月4日に AMDA 看護師1名を被災地に派遣しました。

瓦礫は道路脇に片づけられているものの、未だ電気などが復旧していない状況でしたが、地元の学校などは壊れた屋根にビニールシートを張った状態で再開しつつありました。6日にはタクロバン市を中心に、台湾の医療 NGO・台湾ルーツとの医療支援活動に参加協力を行いました。



台湾ルーツとともに医療支援にあたる AMDA 岩本看護師

フィリピン台風 30 号復興支援会議 “開かれた相互扶助 / バヤニハン” マニラで開催

2014年3月8日、AMDA とフィリピンの NGO・PRRM (フィリピン農村再建運動) の共催で、「フィリピン台風 30 号復興支援会議 “開かれた相互扶助 / バヤニハン”」をマニラで開催しました。(「バヤニハン」とは、フィリピン語で相互扶助の意味。)

フィリピン政府、フィリピン医師会、地元 NGO ほか国内外の 13 団体がフィリピン台風 30 号に関する体験、活動、計画を発表し、グループディスカッションを行い、フィリピン台風 30 号復興支

2014年4月25日 VOL.37 第269号 定価550円
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail: member@amda.or.jp
 郵便振替: 01250-2-40709 口座名: 特定非営利活動法人アムダ

2014年
春号

春

救える命があればどこへでも

フィリピン台風 30 号被災者に対する復興支援事業

2013年11月8日、台風30号(ヨランダ: Yolanda)が、フィリピン南部の島々に上陸し、死者6,293人、行方不明者1,061人、負傷者28,689人。被災者は約1607万人、約342万世帯、家屋の被害は114万件を越えました。被害はレイテ島、サマル島ほか多くの島々の57市591町村に及び、道路、飛行場などの交通網や病院や学校などの公共施設などにも大きな被害が発生しました。(フィリピン国家災害対策本部2014年4月3日発表)

この状況を受けて AMDA では、緊急医療支援として11月10日から、第1次として日本から医療スタッフを派遣。2013年12月末までに、8か国、のべ25人のスタッフを被災地に派遣しレイテ医師会、フィリピン空軍、PRRM (フィリピン農村再建運動) など地元組織とともに活動しました。2014年からは復興支援として支援活動を継続しています。



マニラで開かれた復興支援国際会議の様子

援や今後のフィリピンにおける災害対策と対応について話し合いました。

会議の最後には、「相互扶助 / バヤニハン」の精神のもと提唱された「フィリピン台風 30 号復興支援マニラ宣言」が採択され、会議に出席した約110人が賛同し、閉会となりました。

アルファ米の配布を実施

2014年3月10日から、レイテ島タクロバン市内5か所において、元レイテ州知事、レイテ医師会などの協力のもとアルファ米750食を被災者に提供することができました。住民からは「とても幸せな気持ちになります、未だに支援を続けてくれてありがとうございます。」と感謝の言葉をいただきました。



アルファ米配布の様子

広島県教育委員会合同支援事業 広島高校生が復興支援活動に参加

AMDA は復興支援の一つとして広島県教育委員と合同で、日本の高校生がフィリピンの高校生の復興のための支援を行う「同世代交流事業」に取り組んでいます。

AMDA の提案により、広島県教育委員会から、広島県内の高校に呼びかけを行い、福山誠之館高校の生徒をはじめとする多くの広島県内の高等学校、生徒がこの呼びかけに賛同。2月23日には福山駅前街頭募金を実施、5校29名が参加しました。その他にも各校内での募金活動など積極的な活動を実施、3月19日時点で広島県内33校が参加をするプロジェクトとなりました。

そして3月24日からは生徒の代表者2名がフィリピンへ渡航し、この募金活動で集まった寄付金で、文具などの支援物資を購入し、被災地タクロバン市を訪問。同市内のスキャンジナビア高校生へ直接手渡しするとともに、「私たちは忘れていませんよ。」というメッセージを届けることができました。

(関連記事次頁)



購入した文具や雨具などを順番に手渡す高校生ら

フィリピン台風 30 号復興支援活動

フィリピン台風 30 号被災者に対する支援活動の一つとして、広島県立福山誠之館高等学校の学生 2 名と引率の教諭 1 名が 3 月 24 日から 29 日の 6 日間、AMDA のスタッフとともに被災地・レイテ島のタクロバン市を訪れ、地元の学生との交流や支援物資の配布を行いました。なお、レイテ島タクロバン市は、広島県福山市と姉妹都市の関係にあります。以下に参加した学生からの感想を一部紹介します。(関連記事前頁)

広島県立福山誠之館高等学校 2 年 末永 千恵

タクロバン市に到着して一番に目に飛び込んできたものは、物乞いをする小学生くらいの少年でした。話で聞いたことはありましたが、実際に見たのは初めてで、ただただびっくりしました。町の様子は、その被害の大きさに驚きました。町の中心部は活気づいていましたが、海岸沿いの様子を見てみると高潮にあったことが 5 カ月たった今でもはっきりとわかりました。鉄柱が下り曲がって建物の上に乗っていたり、大きな建物があった場所が跡形もなく荒野になっていたり、ゆがんだバスや窓のない車がいまだに放置されていたりしていました。地元の方の話から、まだ死体が埋まっているかもしれないことを知り、胸が痛みました。海を見たら当時のことを思い出してしまう人がいる中、それでも海岸沿いに臨時の家を建てて生活している人たちもいました。自分たちの住み慣れた土地にいたいと



訪問した小学校で子どもたちの笑顔に囲まれた

いう気持ちを感じられました。学校訪問へ行く途中では、大きな船が町に乗り上げているまま残されていました。この船は米俵などの重い荷物が乗っていたと聞き、高潮の威力を思い知りました。

まず、スカンジナビア小学校を訪れました。フィリピンの小学生は私たちを珍しそうに見ていましたが、とてもフレンドリーに迎えてくれました。岡山大学附属小学校の小学生が書いてくれた大きな寄せ書きをみんなの前で披露し、一人一人に準備してきたキャンディーを配りました。小学生たちは本当に元気で、私の腕をひっぱってクラスに連れてってくれたり、クラスから身を乗り出して手を振ってくれたり、その優しさや元気に、自然と笑顔の自分がいるのに気が付きました。

そのあとに、スカンジナビア高校に行きました。高校の旧校舎は全壊していました。高校生は体育館の周りにテントを立てて、その下で勉強していました。当然壁はなく、不便さを感じられました。体育館も建っていましたが屋根のほとんどがなく、床は水たまりがたくさんありました。その体育館で私と楠君が英語でスピーチをしたり、日本についてのクイズをしたりしながら交流しました。皆、私の拙い英語に反応してくれて、本当にうれしかったです。

広島県立福山誠之館高等学校 1 年 楠 武之

今回僕がフィリピンのタクロバン市を訪れて思ったことは、三つあります。

一つ目は、被害の深刻さが、訪れる前に想像していたものよりはるかに大きかったことです。日本に直撃する台風とは全然違って、とても驚きました。たとえば、海岸線沿いに立っていた建物はほとんど壊されており、屋根のない家や鉄筋が崩れてしまったラジオ局など、被害の大きさを物語っていました。日本のテレビで見ているだけでは、限られた部分しか見ることができないということを、改めて実感しました。

二つ目は、高潮の被害についてです。

台風は、強風によって様々な被害が出るものだと思っていました。しかし、今回の台風の高潮による影響で、たくさんの方が流されて亡くなったと聞きました。この話を聞いて僕は、高潮の恐ろしさを初めて理解しました。

三つ目は、被害にあったにもかかわらず、現地の人々が笑顔がたくさん見せていたことです。僕が思う、フィリピンと日本の一番大きな違いは、この点だと思います。前に進むしかない状況で、一番大切なことは「あきらめないこと」と「笑顔絶えず見せること」だと思います。うつむいてばかりではいけないという、現地の人々の強い思い



訪問した高校で日本に関するクイズを行なった

交流の最後に支援物資として準備した文具や雨具を渡しました。手渡す時に日本語で「ありがとう」と言ってくれる生徒もいて、そのことで心の距離がぐっと近づいた気がしました。

今回のことを振り返って、一番印象に残っているのは、大規模な台風によって被災したにもかかわらず、現地の生徒をはじめ多くの方が笑顔で私たちを迎えてくれたことです。私が逆の立場なら、明るい顔を保ってられないと思います。私たち高校生は、町の復興にかかわるような大きな支援はできませんが、現地の同世代の人の話を聞いて心に寄り添ったり、手紙などで気持ちを伝えて勇気づけることができます。今回訪問させていただいたことを生かして、次の支援を高校生なりに考えて実行したいと思います。



災地状況の見学

が伝わってきました。フィリピンの人々の親切なそぶりは、不安な僕たちの大きな支えとなりました。街頭募金で集めた資金で物資を買うときに、英語で説明しなければなりません。自分の英語がなかなか伝わらなくて、おどおどしてしまい、スムーズに買うことができませんでした。しかし、それでも現地の人々は何度も説明してくれて、熱心に聞いてくれました。このような優しい心を持つ人が多い分、助け合って、笑いあって復興へ向かって行けるのだと思いました。

AMDA 高校生会 フィリピン台風被災者に向けた街頭募金を実施

AMDA 高校生会メンバーは 3 月 29 日に岡山天満屋地下通路で、フィリピン台風被災者のための街頭募金活動を実施しました。これは高校生たちが自らが考え、取り組んだ事業で、高校生たちの声に多くの方が足を止めてご協力くださいました。ありがとうございました。

取り組みを行った高校生会リーダーからの活動報告を一部抜粋して紹介します。



街頭募金を実施した高校生会メンバー

【街頭募金活動を実施して AMDA 高校生会リーダー 森部葵】

フィリピンで大きな台風が起きたことに対し、自分たちでまず何ができるのかを高校生会で考え、いろんな案が出た中で募金活動を行うことになりました。

自分たちだけで声を出して呼びかけることは少し恥ずかしいと思ったけれど頑張って 3 時間やりきりました。たくさんの方が「少しだけど」と言いながらも協力して下さってとても嬉しかったです。

もしかしたら、何の募金活動をしているのか分からずにいた

方もいたかもしれないけどその誰かのためにという優しい気持ちも全部、フィリピンまで届いたらいいなと思いました。

募金を呼び掛けていると、中には「勉強したほうがええんじゃないの?」という方もいましたが、そんな方にも私たちの気持ちやフィリピンでの現状を伝えることのできる人になっていきたいと思いました。

国境をこえた活動ができ、「日本からでも応援しています!!」という思いとともに多くの方が救われたらうれしいです。

【AMDA 高校生会とは】

1995 年の秋に発足した高校生のボランティアグループです。現在は約 40 人の中・高校で活動しています。学校などはみんなばらばらですが、心をつなげて活動を続けています。月に 1 回程度、AMDA 本部（岡山市伊福町）に集まり活動計画を立て高校生にできる支援を考えています。また AMDA のプロジェクト担当者から、AMDA の活動の話などを聞く勉強会なども行っています。現在は東日本大震災の復興支援やフィリピン台風の復興支援などに、取り組み、そのほかにも自分たちの経験を講演会で話したり、テレビやラジオへの出演などしています。同じ思いを持つ学生さんを随時募集しています。興味のある方はお問い合わせください。 問い合わせ先：AMDA ボランティアセンター TEL:086-252-7700 member@amda.or.jp

ハイチ大地震復興支援事業 無料歯科診療を実施

2010 年 1 月に発生したハイチ大地震に対して AMDA は緊急医療支援活動を実施しました。そして、復興支援事業として、これまでに義肢製作工房の運営、スポーツ親善交流事業の開催などを行ってきました。

そしてその復興支援事業の一つとして 2012 年から年に 1 回、無料歯科診療を実施してきました。2014 年 3 月 1 日には、第 3 回目となる無料歯科診療を実施。AMDA ハイチ支部の歯科医師たちによりフォンデネグ市にあるサルベーション・アーミー病院の協力のもと行われました。

無料歯科診療には、78 名の方が訪れ、歯科検診、歯のクリーニング、抜歯などの治療が行われました。患者さんの中には、生まれて初めて歯科治療を受けるという方もいらっしゃいました。

また、AMDA ハイチ支部のマック・ケビン・フレデリック歯科医による口腔衛生教育も行われました。参加者の中には、歯が悪くなった場合の治療は抜歯しかないという観念を持っていた人もいましたが、予防の大切さに気づく良い機会となりました。

診察や口腔衛生教育を受けた患者の方からは多くの感謝の言葉が寄せられました。



無料歯科治療の様子

フィリピン台風 30 号緊急医療支援 患者からの喜びの経過報告

AMDA 医療チームがサマル島で医療支援活動を実施した際に、重篤な外傷患者を病院へ搬送し、処置を行いました。一時は足の切断の危機にありましたが、危険な状況を脱し、経過も良好でお礼の言葉とともに、その後の経過を写真で送っていただきました。



傷口がふさがり足の腫れがずいぶん引きました

フィリピンミンダナオ島 台風1号 緊急医療支援活動



土砂で埋もれた建物の様子

1月17日にフィリピン南東部の海上で発生した台風1号は、20日未明にフィリピン南部のミンダナオ島に上陸し、洪水被害や土砂崩れなどによる家屋の損壊などの被害が報告されました。フィリピン国家災害対策本部(1月23日付)発表によると、この台風による被害は死者49人、負傷者69人、行方不明者10人、約19万世帯92万人が被災し、家屋の被害は2000件を越えました。

このような状況を受け、AMDAでは看護師1名、調整員1名からなる医療チームを被災地に派遣しました。一行は1月24日に日本を出発し、フィリピン軍の協力のもと、被災地ミンダナオ島ダバオで現状調査にあたりました。ダバオから車で東に約4時間のルポン町では土砂崩れ、地すべりなどが多く発生し、被災状況が深刻であったことから、同町のマラヤグ地区での支援を決定しました。

医療支援活動としては、地元の助産

師の協力を得て、健康相談ブースを2か所設置。のべ303人に対し、血圧測定、血中酸素飽和濃度測定、血糖測定、聴診などを実施し、症状により準備した市販薬やビタミン剤などを提供しました。主な症状としては、咳、鼻水、発熱、関節痛など。その他にも高血圧やめまいなどが見られました。残った医薬品は、地区の助産師を通じて、地区のヘルスセンターに寄贈することができました。さらに、食料支援として米、水、缶詰、インスタント麺、シーツなどを1袋にまとめて230世帯分を、被災した家族に手渡しました。住民からは「これは重い!たくさんありがどう!」「シーツが入ってるなんて、そんな支援物資をもらったことがない。本当にありがたい」など、口々に感謝の言葉を頂くことができました。

さらに、被災地の一つであるサンボ



健康相談ブースでチェックを行うAMDA看護師ら



支援物資の配布を行う吉川調整員ら

中心に、(株)キッカワと合同で現地ボランティアの協力のもと、2月19日、25日、26日、3月1日の4日間で300世帯に米やインスタントラーメン、缶詰などの食料・生活支援物資の配布を行いました。

【派遣者プロフィール】

- 吉川マービー：調整員
ミンダナオ島 サンボアンガ市在住
- 景山 エレーナ：調整員兼通訳/
岡山倉敷フィリピーノサークル 広報
福山市在住
- 山崎 希：看護師/
AMDA プロジェクトオフィサー
岡山市在住



インドネシアスラウェシ島 マナド市洪水 緊急医療支援活動

インドネシアスラウェシ島にある北スラウェシ州の州都マナド市で1月12日から15日にかけて極度の大雨の影響により洪水や土砂崩れが発生し、深刻な被害がでる事態となりました。発生した洪水と土砂崩れは8つの市に及び、この洪水による被害は死者19人、総被災者数は9万人、被害総額は推定1兆8700億ルピア(約162億円)に上る



と試算されました。(インドネシア国家災害対策庁:BNPB 1月19日発表) この状況を受け、AMDAはAMDAインドネシア医療チームを被災地に派遣することを決定。チームは1月22日に、準備した医薬品や支援物資とともに、被害地テルナテ村に向かいました。

テルナテ村は、被害が最も大きかった地域の一つで、死者こそいないものの、家屋3棟が全壊、被害の大きいもの小さいものを含め284棟が被害を受け、1,000家族以上3589名が避難施設での生活を余儀なくされていました。AMDA医療チームは冠水した道路を徒歩で、活動拠点となる医療保健施設へ移動しました。

巡回診療では、約200人を診察することができました。主な疾患は、腹痛・発熱・頭痛・皮膚掻痒。その他にも、インスタントラーメン・飲料水・石鹼

などの支援物資を配布することができました。

さらに23日には、マナド国立中学校の卒業生有志とともに、被災地の一つであるティカラ・ダラム地域を訪れ、飲料水・米・古着などの支援物資を配布しました。住民たちからは、「こんな小さい通りの奥まで支援が来てくれたのは初めてです。本当に感謝しています。」など感謝の言葉をいただきました。



医療保健施設で実施した無料診療の様子

アムダフードプログラムとは

「食は命の源」をコンセプトとして行っている「アムダフードプログラム」は、2012年から岡山県真庭郡新庄村の野土路地区に農場を構え、スタートしました。これまでに AMDA が海外で実施してきた様々な医療支援活動を通じ、「安全、安心な食」が健康な体を作るだけでなく、「安全、安心な食」には付加価値が付き、貧困地域の生活向上、労働意欲の向上につながることに着目。本プログラムを通じてアジアへの有機農業の技術移転を目指しています。



あひるの農法を行う AMDA 野土路農場

2013年度 インドネシアからの研修生受け入れと帰国後の報告

2013年度は、インドネシアスラウェシ島マリノ村からの研修生2名を新庄村と合同で2013年4月から9月までの6か月間、受け入れました。

農業を使わないアヒル農法で稲作を行っている AMDA 野土路農場での研修を中心とし、そのほかにも新庄村内の有機農家や技術者の方々にご協力いただき、稲作以外にも野菜作り、花づくり、堆肥作り、炭作りなどのフィールドで有機農業の研修を実施しました。

研修を終えた2名は、帰国後マリノ



田植えを行う研修生ら



支援者の方たちと一緒に収穫を行う研修生ら

村で、農業を使わない有機農業の実践圃場を確保し、研修で学んだことを生かして野菜作りなどからスタートしました。作業の様子などはインターネットを介して報告を受け、AMDA と新庄村でサポートを行っています。



マリノ村の圃場に野菜の苗を植える様子

スラウェシ島マリノ村へ技術者の派遣

2月中旬に新庄村から有機農業指導者として坂本賢治氏と AMDA スタッフが圃場を訪れ、研修生のフォローアップと村内での有機農業実践指導にあたりました。

マリノ村では1月に田植えが終わり、6か月で収穫を迎えます。その他にも野菜作りなどを行っています。今回指導者らの渡航が2月だったため、主に、有機農業の基本となる土づくりに必要な炭作り、堆肥作り、焼きすくもづくり、大豆の試験栽培などのワークショップのほか、有機農業についての座学を中心に行いました。さらに、研修生たちが実践している圃場についてのアドバイスや、現状の視察およびヒヤリングなどを行いました。

ワークショップではこれまでに直接的な農業の指導を受けた経験のある住



絵を使って有機農業の良さを指導

民がほとんどいなかったため、悪天候にもかかわらず多くの方が詰めかけ、研修生2名を含む、平均25名の農家の方が参加しました。いずれも積極的な質問が飛び交う、にぎやかなワークショップとなりました。



雨の中「焼きすくもづくり」の実践

文字が読めない参加者も多かったため、イラストを使った説明資料なども準備し、座学を行いました。

ワークショップに参加した住民からは、「これまで農業研修を受ける機会はほとんどなく、あったとしても口頭で少し説明を受ける程度で理解が難しかった。今回の研修は実際にどうやって炭や堆肥を作るのか、作った炭・堆肥をどう使うのか実践しながらの説明だったので分かりやすかった。一度の説明

では理解が難しかったが、先生が根気強く何度も言葉を変えながら説明を繰り返してくれたので、理解度も高まった。ほんとうにうれしい。今回研修したことを、早速取り入れていきたい。」と話してくださいました。

さらに期間中には、スラウェシ島内のゴア県で近年実施されている「准・有機農業」のフィールドや堆肥工場を視察し、有機農業を行いながらも収穫量を増やすための、より良い方法について関係者で協議を行いました。



ゴア県のフィールドを視察する坂本氏

今後も AMDA はマリノ村圃場のサポートを行っています。

また2014年度はフィリピンからの研修生の招へいを計画しています。

震災から3年が経過しました。AMDAは東日本大震災の発生翌日から被災地での支援活動を開始し、約50日間の緊急医療支援活動の後、第1次復興支援3か年計画と銘打って、「医療・健康」「教育」「生活」を柱とした様々な支援活動を実施して参りました。4月からは第2次復興支援3か年計画として、とぎれることなく東日本大震災復興支援事業を継続して参ります。引き続きご支援のほどよろしくお願いたします。

2014年3月11日

AMDA 大槌健康サポートセンター

イェローハウス健美鍼灸師 佐々木賀奈子

震災後3年間ずっと御支援頂き、心から感謝いたします。午前中治療にいらっしゃった患者さんが、「3年前のこの時間は先生の治療院も、家も、私の家もあったよね。」と言いながら、寝台で涙ぐんでおられました。患者さんたちと、いろんなお話をしながら、口にしないで、手を握りしめながら、抱き合ひながら、涙しました。「3年経ったから、これでいい」とか、「ここまで」とかで

はなく、自分自身も「無理なく、新たな気持ちで覚悟をきめなくては」と痛感した一日でした。

今日、大槌は雪がちらついています。3年前も余震が怖くて、町中が火の海でした。外に居ると寒いから、普段なら「早く雪やまないかなあ。」と思うはずなのに、「雪が降ってくれば、少しは火の勢い止められるかもしれない、雪止まないで。」と願っていた事を思い出しました。

皆様いつも支えてくださりまして、ありがとうございます。

AMDA 大槌健康サポートセンター

AMDA 大槌健康サポートセンター

AMDA 大槌健康サポートセンターは、岩手県大槌町で鍼灸スペースと地域のコミュニティスペースを併設し、地域住民の心身の健康促進をコンセプトに運営を継続しています。現在、鍼灸スペースでは月平均100人以上に施術しています。またコミュニティスペースでは手芸教室、健康体操教室、フライパンでつくる天然酵母パン教室などが人気となっています。特に、健康体操教室では、狭い仮設住宅でも活用できる「畳一帖スペースでできるストレッチ教室」を夕方の時間に開催しており、仕事帰りの方などが多く参加して下さっています。



ストレッチ教室の様子

第5回復興グルメF-1大会開催 ボランティアバス運行

2014年1月19日、AMDAと鹿島商工会（福島県）、気仙沼復興商店街 南町紫市場と共同で、第5回となる「復興グルメF-1大会」を福島県南相馬市鹿島区にある鹿島生涯学習センターを会場に開催しました。「復興グルメF-1大会」は「被災地間相互交流」をコンセプトとして、三陸沿岸部一帯の商店街が復興に向けて一丸となり、東北の現状および情報を全国的に発信するとともに、情報や知恵を共有することで新たな復興への協力体制を形成することを目的としています。

第5回目となった本大会は、初めての福島大会となりました。震災後、福島県南相馬市周辺地域では初の食のイベントということもあり準備の段階では、どのくらいの方にお越しいただけるかと大会関係者は心配していましたが、風評被害という逆風の中 大会当日は、過去最多となる8000人以上が、会場を訪れ受付開始30分前から、列ができ、最後まで行列が途絶えることのない大盛況となりました。



大盛況となった会場の様子



ボランティアバス出発の前に地元のみなさんと

本大会は、福島の商店街の人々だけでなくイベントを訪れた方々にとっても、福島・南相馬市が、更なる復興に向けた大きな一歩を踏み出す機会となり、改めて、大会関係者にとっても、本大会の意義を感じる事が出来ました。

また、本大会に合わせ、岡山から「復興グルメF-1大会ボランティアバス」を運行しました。大会前日の準備から当日の運営、片付けまでを担うボランティアバスには、高校生から70代の方まで年齢層も幅広く、36名が参加しました。前回からのリピーターの方も多く、また今回が被災地を訪れるのは初めてという方も多くおられました。被災地の方とともにイベントを成功させ、復興に向けた喜びを共有することが大きな目的の一つで、活動終了後には「本当に参加して良かった。次回も参加したい。」「行列ができてのを見たときは、涙が出そうになるほど嬉しかった」「東北の人たちのことを身近に感じられるようになった」などの感想があげられました。今後もボランティアバスの運行を予定しています。

被災地間相互交流フォーラム 被災地のリーダーが岡山に集合

3月2日、復興グルメF-1大会に参加する岩手県、宮城県、福島県の被災地の団体のリーダーらが岡山に集合し、被災地の現状と復興を考えるフォーラムを開催しました。その中で「南海トラフ地震が来たら、今度は私たちが岡山に助けに来ます!」と心強いメッセージが発せられ、被災地間の絆と岡山と東北を結ぶ絆を確信するフォーラムとなりました。



東北からのフォーラム参加者のみなさんと

第3回絆コンサート&フォーラム

2014年3月23日、オルガホール（岡山市）を会場に第3回となる「絆コンサート&フォーラム」が開催されました。



コンサートの様子

絆コンサートとは、AMDA 東日本大震災の復興支援として「同世代交流」をコンセプトに行われている事業です。2012年3月に開催した第1回絆コンサートでは、岩手県立大槌高等学校（岩手県大槌町）の吹奏楽部が岡山と広島を訪れ、地元高校生たちとともにコンサートをを行い、世代を超えて多くの人々の心に響きました。そして2年目となった2013年3月には、就実高等学校吹奏楽部（岡山県）とAMDA 高校生会（岡山県）のメンバーが大槌町を訪れて第2回絆コンサート in 大槌を開催することができました。そして震災から3年を迎えた2014年3月には「第3回絆コンサート&フォーラム」を開催することができました。

第1部では「学生の視点で考える震災と復興」として、被災地出身の学生2名が、被災を経験した学生の視点での「復興」を語り、「このことを風化させないでほしい」「自分には起こらないと思わないでほしい」とそれぞれの伝えたいメッセージを熱く語りました。



さらに、これまで支援活動に携わってきた学生の代表としてAMDA 高校生会、AMDA ボランティアバス参加の大学生がそれぞれの視点から「学生として今できる復興支援」について発表しました。

第2部では岡山から、被災地を訪れ音楽演奏などで被災地支援を行った音楽家の黒住教奏楽寮 吉備楽、三船文彰氏、中谷和子氏によるステージが行われました。フィナーレには、就実中学校・高等学校の吹奏楽部と、被災地出身の臺隆裕氏の合同演奏が行われ、



臺氏と就実高校の合同演奏の様子

会場は感動の涙と笑顔と大きな拍手に包まれました。

学生の持つエネルギーや純粋な言葉で発せられる被災地への想いなどが、会に参加した大人の心を動かしました。また、これからの東日本の復興を担う世代の持つ絆の強さやエネルギーに、今後の明るい未来を想像させられるコンサート&フォーラムとなりました。

コンサートの開催にあたり、大槌高校吹奏楽部顧問の金丸先生からメッセージをいただきました。以下に紹介します。

絆コンサート開催に寄せて

岩手県立大槌高等学校 吹奏楽部顧問 金丸 元

絆コンサートの第3回が開催されることを、大槌高校吹奏楽部の部員とともに心からお喜び申し上げます。そして、このような会を通じて、震災や復興のことを考えようとしてくださる方々がいらっしゃることに、深く感謝いたします。

これまでに2回の絆コンサートが開催されました。そして、コンサートが開催されるたびに、人は人との出会いの中に生き、そして生かされているということに改めて強く感じて参りました。震災があり、第1回の絆コンサートで皆さんと出会い、そして念願の再会を果たした大槌での第2回、そして本日の集い。これまでに、どれだけ多くの方々がこの出会いに影響を受け、人生に反映させてきたことでしょうか。本校吹奏楽部の卒業生の中にも、震災後の人との出会いの中で感じるどころがあり、それをきっかけに自分の生きる道を見出して進み始めたという者がございます。私は、このような出会いの中に関わることができたことに、大きな喜びを感じております。

第3回絆コンサート&フォーラムの盛会を心よりご祈念申し上げます。そして、今回の集いが、人々の心に届くものとなり、何かを動かすきっかけとなることを願ってやみません。ありがとうございました。

被災地医療支援 医療ボランティアスタッフ派遣

被災地医療機関支援として、AMDA では宮城県南三陸町の公立志津川病院に対して、春季、夏季、冬季の地元医療スタッフが長期休暇を取る時期に、スタッフの方々の負担を軽減すべく、2011年から医療ボランティアを派遣しています。今回は、3年目の春季派遣として、3月16日から3月31日までの期間に、志津川病院からの要請により登米市立よねやま診療所に看護師2名を派遣しました。

さらにAMDA 兵庫県支部の小倉医師が勤務する石巻市立雄勝診療所に対して、2名のボランティア医師を派遣しました。

【宮城県登米市立よねやま診療所 春季医療派遣者プロフィール】

山河 城春（やまかわしろはる）：看護師／埼玉県在住（3/16～3/24）

新沼 正子（にいぬまさこ）：看護師／岡山県在住（3/23～3/31）

【宮城県石巻市石巻市立雄勝診療所 ボランティア医師派遣者プロフィール】

矢野 和美（やのかずみ）：医師／福岡県在住（1/26～2/1）

吉廣 優子（よしひろゆうこ）：医師／埼玉県在住（2/23～3/1）



雄勝診療所にて 吉廣医師を囲んで



岡山にて（写真右 金丸教諭）

モンゴル救急搬送サービス 103 より研修生来岡

2014年2月23日から27日まで、モンゴルの救急センターよりAMDAが医師1名を招へいし、岡山市の協力のもと、救急医療のシステムなどさまざまな研修を行いました。これはAMDAが、2013年4月に開催した「アジア相互扶助災害医療ネットワーク会議」の際に、モンゴルの代表として参加したモンゴル・ウランバートル市救急医療サービスセンター(モンゴル103救急医療サービス)の所長が来日の際に、岡山市消防局を見学し感銘を受け、岡山市の消防設備および救急搬送システムを母国のスタッフに習得させたいとの思いからウランバートル市長を通じて、岡山市長に協力依頼があり、今回の研修が実現したものです。

今回招へいたのはモンゴル・ウランバートル市救急医療サービスセンター(モンゴル103救急医療サービス)



岡山市消防局での研修の様子

のゴトフ・ナランジャガル医師。

研修は、岡山市消防局救急科指導のもと、岡山市西消防署、岡山大学病院高度救命救急センターおよび市内医療機関で4日間の日程で実施されました。岡山市の緊急医療システムや緊急車両、医療資機材の取扱いに関する講習、外傷初療訓練、救急車に同乗し患者搬送などを研修し、その他にも、ハイパーレスキューおかやま訓練視察、西消防署情報指令課および岡南飛行場の岡山市消防航空隊見学が行われました。

【研修を振り返って ナランジャガル医師】

モンゴルでは医師1名、看護師1名、救急救命士1名がチームとなり救急搬送を行っています。今回の研修で、日本とモンゴルの救急医療システムの共通点や違い、日本の救急搬送システムの優れた点を多く学ぶことができました。今回の研修で得た多くの知識や技術をモンゴルの人々の安心や安全を守るために役立てたいです。多くの方に親切にいただき、本当に実りの多い研修となりました。御協力くださった皆様、AMDAのみなさん、本当にありがとうございました。

ブータン研修生からの活動報告

2013年1月にブータン王国の救命救急士のサルバジット・チェットリ氏が来岡し、岡山市消防局などで研修を受けました。そのチェットリ氏から、帰国後の活動報告が届きました。

【帰国後の活動報告 チェットリ救命救急士】

帰国後、ブータン国内で救命士や救急ドライバーたち向けに研修で得た知識や経験を共有するため研修プログラムを保健省からの許可のもと実施することができました。救急車 & 救命設備の操作に関する研修のほか、国家緊急救援サービス指針の見直しについての研修や一次救命処置、二次救命処置の研修を4回実施し、のべ132人が参加しました。研修を実施することで、自分にとって、ブータン国内の様々な地域から集まった方々と情報を共有する素晴らしい機会となりました。



ブータンで実施した研修に参加した人とチェットリ氏(写真最前列右から3人目)

【お知らせ】 AMDA 兵庫県支部が任意団体として独立します

AMDA 兵庫県支部が任意団体として独立しました。温かいご支援をお願いいたします。

春爛漫の季節となりました。これまでAMDA兵庫県支部の活動にご理解とご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。1995年10月の毎日国際交流賞受賞式後に、阪神淡路大震災当時被災者支援を行った神戸大学に留学していたAMDAネパールの小児科医師らが母国に小児専門病院が1つしかなく窮状を訴えたことから、毎日新聞紙上でネパールのこどもキャンペーンが開始され、多くの阪神地域の方々から善意の募金が寄せられ、その募金を基にAMDAネパール母子病院が産声を上げました。このAMDAネパール母子病院を支援しようと1998年2月に「AMDA兵庫」を立ち上げ、その後NPO法人AMDAの県支部として改めて再出発してから早6年半を迎えようとしています。1998年11月の開院以来、2003年篠原記念小児病棟の増築、2013年産科病棟の新設と、病院施設および医療水準の向上に努めて参りました。そして、患者さんに付添うご家族の方々の環境改善を図るため、AMDA兵庫県支部が主体となって建設を進めた「患者家族棟」も新たに完成し、今年1月17日の震災の日に現地で開所式を行い、正式にオープンしました。これもひとえに皆様のご協力のお陰と深く感謝しております。

AMDAグループ内では、昨年5月にAMDAが認定NPO法人に、12月にはAMDA社会開発機構も認定NPO法人に認定され、各法人が独立運営の強化をはかることで、グループとしてより良い活動を実践していく方向に進んでいます。そのような折、AMDAグループ菅波代表から兵庫県支部も新たに独り立ちして数年のうちにNPO法人にしてはと提案いただきました。そのような方向性をAMDA兵庫県支部運営委員会で話し合った結果、AMDA兵庫県支部を母体にして、新たな任意団体として独立し、そしてAMDAグループの中の新たな法人を目指して努力していく事で意見の一致を見ました。

私たちはまだまだ未熟者ではありますが、これまでの16年の経験を生かして、さらに高い所を目指して頑張ろうと歩みを始めました。AMDA兵庫県支部としては一旦解散し、新たに「AMDA兵庫(仮称)」として再出発いたします。新しい任意団体となりましても、これまでと変わらずご支援を賜りますようお願い致します。

AMDA兵庫 江口貴博

2014年1月～3月の動き

| 〈講演〉 | | |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 1月16日 | 新年卓話例会「国際社会に対するアムダの夢」 | NPO 法人一粒会 |
| 1月18日 | 町内の安全・安心「知恵」講座 ～地域応援ひとつづくり講座～ 水害と地域の活動 | 岡山市安全・安心ネットワーク推進室 |
| 1月24日 | 真庭いきいき農林業者のつどい「アジア諸国と連携した有機農業の取り組み（仮）」 | 真庭いきいき農林業者のつどい実行委員会 |
| 1月30日 | フィリピンの台風被害を通して防災・国際支援について考えさせる授業開発プロジェクト | 岡山大学教育学部附属小学校 |
| 1月31日 | 総合的学習時間「国際理解とは」～ AMDA で活動している竹谷先生のお話をきこう～ | 岡山市立石井小学校 |
| 2月5日 | 立志式記念講演「AMDA の活動内容」 | 倉敷市立真備中学校 |
| 2月7日 | 国際的活動について | 倉敷南ロータリークラブ 国際奉仕委員会 |
| 2月7日 | 社会貢献活動（ボランティア活動）について考える | 岡山県立瀬戸高等学校 |
| 2月20日 | 天台宗東京教区 第8回教区研修会 | 天台宗東京教区宗務所 |
| 2月22日 | ミャンマー国際セミナー 基調講演 「日本式医療サービスの海外展開」 | 公益財団法人国際医療技術財団 (JIMTEF)、ミャンマー政府労働省 |
| 3月5日 | 第1回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース「AMDA の災害医療活動」 | 公益財団法人国際医療技術財団 (JIMTEF) |
| 3月5日 | 1年生ボランティア講演会「海外支援について」 | 岡山県立岡山大安寺中学校 |
| 3月6日 | 天台宗東京教区特別研修会「災害時における宗教施設の役割」 | 天台宗東京教区宗務所 |
| 3月8日 | 第三回岡山高校生会議 | 清心女子高等学校 |
| 3月21日 | 被災地現地スタッフからみた被災地の現状 | 富山大学医学部プライマリ・ケア講座 |
| 3月23日 | 岡山進研学院公開デモンストレーション「再挑戦に賭ける君に」 | 岡山進研学院 |
| 3月25日 | 大槌町の被災状況・仮設住宅の現状と AMDA の活動 | 岩手県立大学看護学部 |
| 〈大学講義〉 | | |
| 1月16日 | 国際関係論演習 | 神戸大学法学部 |
| 3月5・10・12・13日 | 国際看護学 | 福山市医師会看護専門学校 |
| 〈イベント〉 | | |
| 1月19日 | 第5回 F-1 グルメ大会 | 鹿島商工会（福島県）・AMDA |
| 1月30日～2月5日 | 国際貢献 NGO フェア | 主催：一般財団法人岡山国際交流協会 |
| 2月1日～2月3日 | ワン・ワールド・フェスティバル | ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会（特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会） |
| 2月13日-2月17日 | 第57回 2014 春洋蘭展 | 主催：岡山県洋蘭協会 共催：AMDA |
| 3月2日 | 被災地間相互交流公開フォーラム | AMDA |
| 3/8・3/9 | 東日本大震災復興支援 絆チャリティライブ (AMDA 福山クラブ) | |
| 3月23日 | AMDA 東日本大震災復興支援第3回絆コンサート & フォーラム | |
| 〈AMDA 高校生活動〉 | | |
| 1月19日 | 国際ロータリー第2690地区第10・11グループ 2013-2014年度ウィンター・ミーティング 新世代よりのメッセージ「被災地へのボランティア体験を通じて得たもの、ロータリーに望むもの」 | |
| 3月9日 | 平成25年度 旧閑谷学校世界遺産登録推進活動「まなび」フォーラム | |
| 3月23日 | AMDA 東日本大震災復興支援第3回絆コンサート & フォーラム | |

書き損じはがき、未使用切手を集めています。AMDA 事務局までお送りください。

※通信費の節約に役立させていただきます。

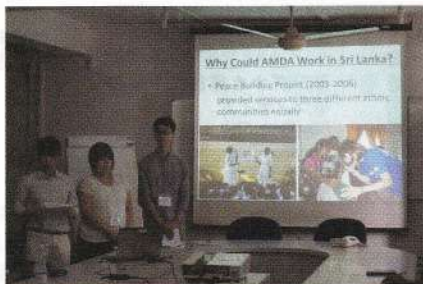
グローバル人材育成プログラム「おかやま国際塾」

おかやま国際塾とは、県内の大学生を対象として、AMDAが行う国際貢献活動の企画、立案および実施のすべてに関わる機会を提供することにより、国際貢献活動への理解を深めかつ企画および管理能力を身につけてもらい、社会のグローバル化に対応できる人材を養成することを目的として実施しているプログラムです。AMDAと岡山大学教員が共同で運営する「おかやま国際塾」実行委員会(委員長・菅波茂)で運営されています。2011年に第1回おかやま国際塾を開催し、毎年1回募集を行っています。2013年度おかやま国際塾3期生はスリランカでの海外研修を経験しました。経験談を一部抜粋して紹介します。

2013年度 おかやま国際塾3期生～国際塾を経験して～

岡山大学医学部医学科2年 松野 純平

今回の研修を通じて、様々な体験をさせていただきました。他の国を訪ね、様々な文化に触れ、刺激を受けることで、これまでと違った物の見方、新たな気づきを得られたような気がします。とりわけ今回は民族、宗教の多様性を感じる事が出来たのが、大きな経験でした。研修の目標で、価値観の違いを互いに尊重するにはどうしたらよいか、ということをおぼえました。日本ではそうした多様性を感じる機会が少ないわけですが、スリランカを訪ねて改めて「違い」というものを感じました。価値観の尊重は言葉で言うのは簡単ですが、実際には複雑な思いが絡み合い、非常に難しいことです。完全に分かり合うことは難しいかもしれません。しかし本プログラムなどを通して、尊重しあおうとする思いを持ち続けることが何よりも重要なのではないかと感じました。



サルボダヤ(スリランカのNGO)のオフィスでプレゼンをする塾生ら

岡山大学法学部3年 中村 文

このプログラムでは活動の企画、立案および実施をすべて自発的に行う必要があり、現地の学生や先生方との連絡やプレゼンテーションの準備など様々な事を行う必要がありました。今回の研修を通して、国家間だけではなく個人間において活動する際には信頼関係が重要であると感じました。それを構築するためには感謝を伝えることや相手を尊重すること、また相手の価値観を否定しないことは非常に重要です。このプログラムを通して、実際にどのように行動すればよいかを学ぶことができたと感じました。また、自分の中にある前提を相手にとって当然のものだと考えるのではなく、相手と同じ立場に立ってお互いが快適に過ごせる方法を検討することが重要だと感じました。

実際に自分が現地に訪問して貢献できたことは少ないように感じますが、この様な小さな個人間の積み重ねが、何か問題が起きた時や緊急事態の場合に国家間に少しでも活かされると喜ばしいと思います。

岡山大学法学部2年 三方 咲紀

スリランカでは、貴重な経験をたくさんさせていただきました。それと同時に、私はまだまだ未熟だと感じました。そして、この研修を経て、自らの視野を広げ、自分自身や日本のことをより深く見つめなおすことができました。

そして、今回の研修を通して最も強く思ったことは、私も平和構築に携わる仕事がしたい、というものです。元々、興味のある分野だったのですが、自分が実際に平和に向けたプログラムに参加することで、より強くそう思うようになりました。また、もう一度スリランカを訪れたいとも思いました。この研修がなかったら、私はこんなにもスリランカに思いを寄せることはなかったし、自分の将来に向けて方向性を定めることもなかったと思います。この研修に関わってくださった方々、スリランカの人々、国際塾のメンバーなど、皆さんのおかげで貴重な経験ができたことに感謝しています。来年は、私が国際塾の4期生メンバーの手助けをする側として力になりたいと思います。



コロンボ大学の見学後、校内で話を聞く塾生ら

第4回おかやま国際塾 塾生募集開始

2014年度の第4回おかやま国際塾の塾生の募集を開始しました。本年度は、海外研修先をフィリピンで予定しております。岡山県内の大学に通う学生を対象とし、定員は3名となります。応募締め切りは5月30日。詳細は「おかやま国際塾」のホームページをご覧ください。たくさんのご応募お待ちしております。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



学校法人朝日学園様



株式会社中野コロタイプ様



公益社団法人日本医師会様



チャリティ備前焼販売 from bizen 様